

# 桁違いの熱気に満ちていた總統選挙

片木裕一 事務局次長



高雄空港で李登輝先生と記念撮影(3月13日)

【初日・三月十二日】

三月二十日の投票日を目前にした三月十二日から十四日にかけて、日本李登輝友の会では第二回目の公式訪問団となる「台湾總統選挙視察団」(団長・黃文雄常務理事)を組み訪台しました。参加者は四十六人。私は、公式訪問団の第一回となった昨年九月六日の「台湾正名運動訪台団」(団長・小田村四郎副会長)にも参加しましたので、その熱気は多少なりとも認識していましたが、今回は桁違いの熱気を感じました。

初日は、高雄空港から屏東の二二八記念館へ直行。ここは阮朝日さんという二二八事件犠牲者の娘さんの阮美珠さんが建て、管理をされているのですが、気高い姿勢とその美しい日本語にはただただ頭が下がりました。

次に、我々を乗せたバスは「工商展覽センター」での世界台湾人大会の前夜祭へ。ここ

では謝長廷・高雄市長が千人を超える参加者を前に演説しており、それが終るや我々は壇

上へ。マイクを渡された袖原事務局長は「台湾の民主化は止まらない。我々は李登輝前台湾總統と陳水扁總統が進める民主化を支持する」と絶叫。すると、林建良常務理事の通訳を待つまでもなく会場は大歓声、続いて「阿扁、当選(アッピニア、トンスワン)」の大合唱となりました。

【二日目・三月十三日】

一夜明け、我々は世界台湾人大会の会場である漢来ホテルへ。開会式の見学です。

ここでも「日本の方々も来場しています」と紹介があり、立ちあがったところ大歓声。これで終わりかと思いきや再び袖原氏は壇上に招かれ、マイクを……。今度は何を話すのかと思うと、何と乙旗を取り出す！参加者は最初それがわからず「ボカン」としていま

したが、日露戦争のくだりが紹介されると「おー」といったどよめきが！そして「台湾ノ興廢コノ一戦ニアリ」とのメッセージと理解されるや、どよめきは歓声に！

これにて我々は台南県新營にある全国李登輝之友会理事長の黃崑虎さんのご自宅へ。このお屋敷、「四合院造り」という台湾の伝統的な造りだそうで、ここで我々は日本人以上にしつかりとした日本語でこの建物の説明をいただき、さらに、台湾料理の昼食にあずかった。この広い中庭で鳥のさえずりを聴きながら、ビールを飲んで美味いものをいただいて……まさに極楽気分！しかし、ツアーはここで終る訳ではない。名残惜しくもここを後にして、奇美博物館へ向かいます。

ここでは到着が大幅に遅れたため、見学時間約一時間となり、今回は五階の美術品コーナー、それもかいつまんで、となりました。見学はあつという間に終了、我々は定刻の四時、奇美博物館を出発、高雄空港へ向かいます。この時間に出発しなければならぬ事情が我々にはあつたのです。それは李登輝前總統をお迎えすることです。

バスは順調に走り五時四十分、空港到着。

六時過ぎ、在日台湾同郷会や台湾團結聯盟

の方々が出口から貴賓室の間に列を作り、小旗が振られ横断幕もかかり、お出迎えの態勢が整いました。みながまだかまだかと待ち受ける中、ついに李登輝前總統登場！大歓声の中、前總統はほとんどの人と握手して貴賓室へ。ここで我々は記念写真を撮る機会をいただいたのですが、そのとき、前總統から握手され「ありがとう！」というお言葉をいただいたことは忘れられません。

さて我々は感激の高雄空港から、市内の集会会場へ。付近はまさに「人だらけ」、どうも大変な人数のようです。バスは会場北側の通りで停車、全員下車、のぼすが、私を含む残り数人のところで突然発車、あとから聞く「警官に『ここで停車するな』と追いつて立てられた」とか。とりあえずバスは二つ先の信号で停車、私も下車しましたが、合流は断念、会場の中心へ向いました。通りを入り、人をかき分け、やっとステージを見られる位置に来たら、すでに壇上では李登輝前總統が熱弁を……。これが凄い！とても八十二歳の方とは思えない。もともと大柄な方だが、とてつもなく巨大だ！私はしばし一行のこ

とを忘れて魅入ってしまいました。

我に返って「さあ、どうしよう？」と思っていたら、後方で歓声があがっている。何かと見ると、そこには日の丸が！ここは台湾、そこに日の丸、それを歓喜をもって迎えている台湾の人々、感激です！

この「日の丸隊」が我々の本隊で、お陰で私は再びに合流できました。それにしても、行けども行けども人、人、人の人の波。会場の広さから六十万人近くと思われましたが、翌日の報道では六十六万人だった！

ホテルへ帰還すると、そこに世界台湾同郷会顧問の陳和宏さんがおられ、「今日はお疲れ様でした。立派な晩餐会はできませんが、向かいの店で心ゆくまで、飲んで食べてください」とのこと。この方には我々の急な日程変更でなかなか予定通りお会いできず、多大な迷惑をかけてしまったのですが、そのお心遣いには本当に頭が下がりました。ここで柚原氏から額入りの教育勅語の贈呈です。すると陳さん、「ああ、懐かしい」と言って、その一部を朗誦、一行を驚かせました。その後、最後の一人が帰るまでお付き合いくださりました。

【三日目・三月十四日、最終日です】

この日は、戦後、台湾に残された日本人の遺骨を集めた「日本人墓地」参拝です。高雄市内から近いのですが、台中の宝覺寺などとは異なり、その存在はほとんど知られていません。お墓は覆鼎金という丘の頂上にあり、脇にはガジュマルの大木が……。さぞかし枯葉などで埋もれているのでは？と思つたが、綺麗に掃除されています。温かく見守つてくださる台湾の方々に感謝しつつ、一同合掌。

これで今回のツアーは終了の予定でしたが、多少時間があつたので、「台湾の東照宮」と言われる広済宮へ立ち寄り、参拝。

最後に、現地ガイドの頼さんの言葉が印象的でしたので、ここに紹介します。

「皆さん、本当に紳士ですね。皆さんと三日間ご一緒しましたが、誰一人として『頼さん』はどちらに投票しますか？」とは聞かれませんでした。私は「台湾のためになる」候補者に投票します」

私達に投票権はありませんが、「気持ちは伝わります。我々の「気持ち」が陳總統の得票の一部につながつたのであれば、たいへん有意義だったと思います。